



# 南高SSHだより

第6号  
H25.9.10  
新潟南高等学校  
SSH部発行

## 「トキ野生復帰プロジェクト」研修を行いました

期日：平成25年8月1日(木)～8月3日(土)

場所：佐渡市新穂潟上トキ交流会館（兼：宿泊）、佐渡市新穂キセン城（トキ野生復帰ビオトープ）、トキの森公園など

講師：本間 航介 先生（新潟大学農学部准教授）、関谷 國男 先生（新潟大学教育支援員）

8月1日（木）の朝、佐渡に渡り、トキ交流会館で13時頃から、本間先生によるトキに関する講義がありました。「トキが絶滅したのは環境が悪くなったからだけではなく、ヒトによって殺されたことも原因である。トキはドジョウのほか、様々な生物を食べており、トキを守るには、餌となる生物も守らなくてはいけない。現場と、そこから離れている人々が知っていること、伝わっていることにギャップがある。」などのお話を聴きました。また、新たに発見されたサドガエルについて、関谷先生からの講義もありました。16時頃から、トキ交流会館隣の水田で生物の調査をしました。水路にはガムシなど多くの生物がいました。有機農法の水田にはドジョウなどがいましたが、乾耕田（普通の水田）には陸地の生物が混じっているだけでした。



8月2日（金）はキセン城というトキのためのビオトープに行きました。午前中は棚田（イネは植えていない）で草取りをしました。ザリガニのわなを仕掛けたり、ナタの使い方を学んだりしました。午後は、チェーンソーの使い方を学び、実際に木を切りました。この林はコナラの二次林で、密生しているため光合成の効率が悪く、伐採が必要だそうです。ザリガニのわなを引き上げると、アメリカザリガニの多さに驚きました。その後、棚田で生物相の調査をしました。トキの野生復帰を進めるためには、えさ場や生活の場となる棚田や森林の維持に、大変な労力が必要なことがよくわかりました。

夜は採集した生物の名前調べをしました。例年に比べて非常に生物が少なく、その原因として、梅雨の始めに雨があまり降らなかったため生物が繁殖しにくかったのと、梅雨後半に大雨が降ったため生物が流れてしまったことが考えられます。この研修も長年続けることで、貴重な資料が得られることが分かりました。



8月3日（土）は早朝6時から、放鳥されたトキを観察しに出かけました。5羽のトキを観察できました。トキは敏感な鳥なので、距離を取るなど、驚かせないように十分な注意が必要です。また、他の観察者、研究者の邪魔になってはいけません。トキを守るために組織的な観察が行われています。トキは人里の鳥で、水田、林がある環境で暮らします。トキ交流会館を後にして、トキの森公園、トキふれあいプラザに行き、トキをすぐ目の前で観察できました。これは、非常に珍しく、幸運なことだそうです。

3日間の研修を通して、トキの野生復帰の現場を知ることができ、本当に貴重で有意義な体験ができました。来年は是非多くの生徒に参加してもらいたいと思います。